

## 令和元年度第2回高知市地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和2年2月12日（水）13:30～16:00

場所：高知市卸売市場 管理棟 3階 会議室

出席：委員12名中、9名が出席（代理出席2名含む）

議事：（1）第4期高知県産業振興計画の全体像（案）等について

（2）第4期高知県産業振興計画における高知市地域アクションプラン（案）について

（3）産業成長戦略について

1）移住促進の取り組みについて

2）観光振興の取り組みについて

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）  
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）第4期高知県産業振興計画の全体像（案）等について

意見交換等、特になし。

（2）第4期高知県産業振興計画における高知市地域アクションプラン（案）について

（No. 9 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出）

（杉本委員）

商工会議所でも商品の磨き上げや販路開拓の支援をしているので、必要があれば活用してほしい。

（No. 10 高知市の原木増産の推進）

（高橋委員）

林業は非常に危険な作業を伴い、これほど厳しく人が好まない仕事はないため、後継者不足。組合には県林業大学校の卒業生も数人いるが、基本の作業経験はあっても現場では通用しない。また、台風の時など、適正な間伐が行えていないと災害が起きてしまう。

（中央東林業事務所 久川所長）

林業大学校では、より管理者にふさわしくなるように専攻課程も創設したが、なんとか現場でついていけるぐらいにして送り出しているところ。今後も現場での指導により、通用する人材に育てていただければと思う。

（No. 11 イタドリの外商推進による中山間地域の振興）

（吉屋委員代理）

イタドリの栽培面積は順調に増えているが、不作により出荷が遅れている。イタドリの葉は県内でのテスト販売や県内外のトレードショー等への出展による販路開拓に取り組んでいる。

(宮脇委員)

昨年度、市及び県の補助金を活用し、加工後のイタドリの冷凍保管設備を整備したが、皮を剥ぐ作業の機械化が進んでいないことが課題。

(山脇地域産業振興監)

イタドリの皮剥作業の機械化についてメーカーにも相談したが、今のところは手の方が早くきれいに皮を剥ぐことができることや、一定量がないと採算が合わないという課題がある。まずは栽培面積を拡大して量を増やしていき、最終的には機械化が図れればと考えている。積年の課題であるため、今後も協議させていただきたい。

(No. 21 浦戸湾を活用した観光の振興)

(杉本委員)

遊覧船は、九反田からの発着はできないのか。

(山脇地域産業振興監)

九反田は係留施設であり、料金を設定して遊覧船の乗り降りをするのは条例に反するため商売としてはできない。

(杉本委員)

運休期間が結構長いですが、その点も試算した上で採算がとれる料金設定になっているか。

(山脇地域産業振興監)

乗船者の総数の想定に合わせて設定している。

(その他)

(宮脇委員)

地域アクションプランになっている取り組みの HACCP 導入に関しては、マニュアルを作成してほしい。また、県内の冷凍・冷蔵庫が不足しており、今後、材料や加工製品をストックできなくなる問題が生じる。

(山脇地域産業振興監)

HACCP については、県としてはすべての事業者に認証を取ってもらうように個別に対応している。具体的な場所、品目があればチームを組んで対応に当たらせてもらう。

冷凍庫については、確かに不足しており、県外の倉庫を使用する場合は移送費が余分にかかる。県下全域の課題であるので県庁内で話をしていきたい。

(西込委員)

柑橘類の加工品を作っているが、冷凍庫を個人で持つと電気代がかかり、販売も難しくなる。JA を中心に大きな冷凍庫を構え、民間企業も個人も利用できるシステムがあるとありがたい。

(島田委員)

旧春野農協が持っている大小 2 つの冷凍庫がある。使う場合は設備の更新が若干必要となるが、県下的な動向の中で使える場合は相談をもらえればと思う。

(宮脇委員)

クルーズ船が高知に寄港するまでに DVD を配布するなどして、高知について事前に知っていただくと良いのではないかと。

(山脇地域産業振興監)

チラシやパンフレットの設置や、乗船して説明会をさせていただくなどしている。今後も船会社と協議をしながらPRをしていきたい。

(町田委員)

おせっかい協会として台湾や海外のツアー会社と交流をしており、その中で「オセッカイト」と商店街歩きをするなどの体験を仕事として依頼をしたいという話をいただいている。要望に応じてフレキシブルに対応していきたい。

(国沢委員代理)

中小規模の商店では、キャッシュレス決済を導入したものの手数料等の負担が大きく、結果的に収益を圧迫していると聞いている。国のポイント還元事業終了後の策はあるか。

(山脇地域産業振興監)

メリット、デメリットを理解したうえで導入することが重要。県では、キャッシュレス導入店に実体験を話してもらうなど、個店が判断しやすいようなセミナーを実施している。ポイント還元事業終了後の対策についてはこれから議論すべきだと思う。

### (3) 産業成長戦略について

(観光振興の取り組みについて)

(国沢委員代理)

各施設に突然来られた外国人に対応するために、同時翻訳機の普及も進めるべきではないかと思っている。

(杉本委員)

東京の商店街では、言葉が通じなかったことで売れなかったものが、同時翻訳機の導入により売れるようになったという事例もある。外国人が来ても言葉の壁で商売の機会を逃しているのなら、これも一つの方法ではないかと思う。

(以上)